

進路通信

東京都立武蔵野北高等学校

平成30年5月12日



河合塾記述模試 5月8日(火)

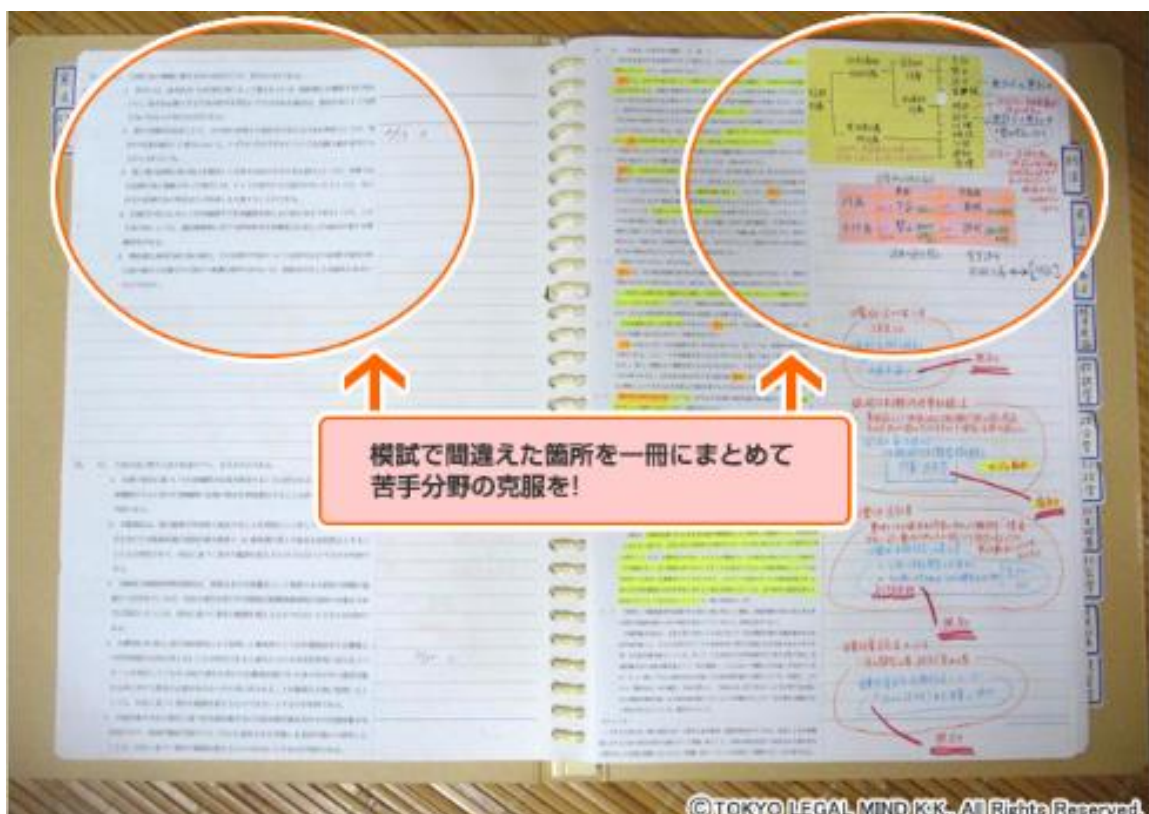
3年生最初の模試はいかがでしたか。これから、6月、7月、8月、9月と毎月模試が続きます。マーク模試に合わせてセンター対策、記述模試に合わせて個別試験対策と、**模試を受験のペースメーカー**として活用してください。模試は現在の合格確率を見るためにみるために行っているわけではありません。今、欠けている力、**これから身に付けなくては行けない力**を知るために、逆にその力を付ければ志望校の合格が得られるのだという視点で受けてほしいと思います。

模試が終わったら、必ず解き直しをしましょう。時間を限らず最後まで解いてみましょう。時間が間に合わないのは、演習量が足りないわけですから、学習していけば早く解けるようになります。しかし、**時間をかけてもわからない問題は、今の自分の課題**です。自分が勉強すべきは、その**欠けている部分の強化**ということになります。理社は範囲が終わっていないので、できないところが多くても当然です。逆に、英国数は、夏までに基礎を固めたい教科です。夏までに基礎を固めることで、秋からの応用問題、赤本等の入試演習が可能となります。しかも、**英語や数学や国語は、簡単に成果がでにくい教科**です。**3ヶ月から半年**は結果が出るまではかかる教科です。“夏休みから始めよう！”と考えている人がいたら、危険です。結果が出るのは、入試が終わってからになってしまいます。始めるのは今、ここからです。

★模試ノートを作きましょう。……………

模試が終わったら、**教科毎に、模試ノート**を作しましょう。模試ノートは、自分に必要な所だけが出ている最高の参考書となりますし、受験の日、これを持っていけば、自分の一年の努力が目に見える形となり、自信をつけてくれまし、見直すところもポイントがしぼれます。

以下、ネットから、いくつかの模試ノートを転載してみますが、これを参考にして自分の好きな形で、自分の模試ノートを作っていきます。ポイントは、**教科毎に分ける**。問題や解説は必要に応じて**切り貼り**する、です。

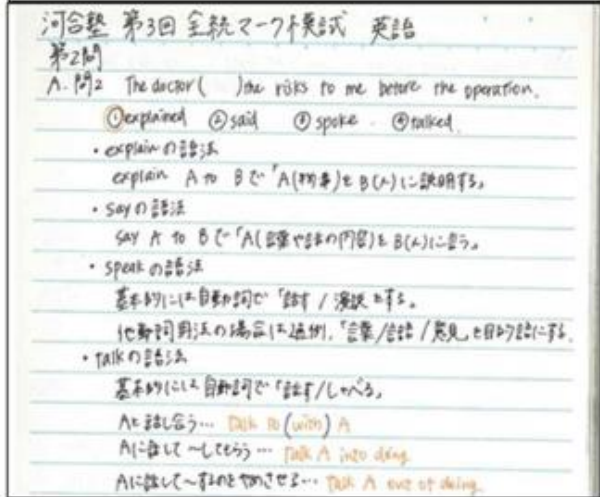


模試復習ノート作成例

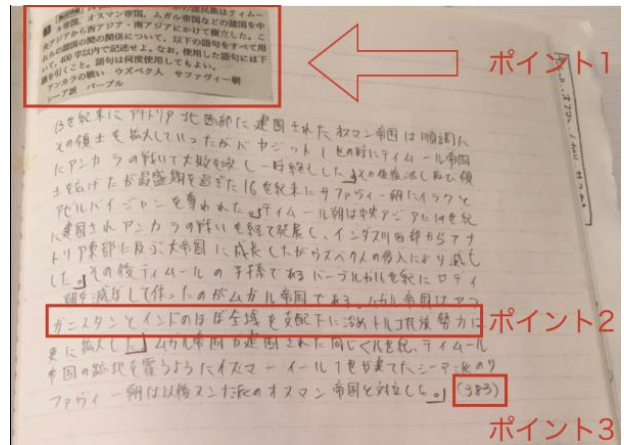
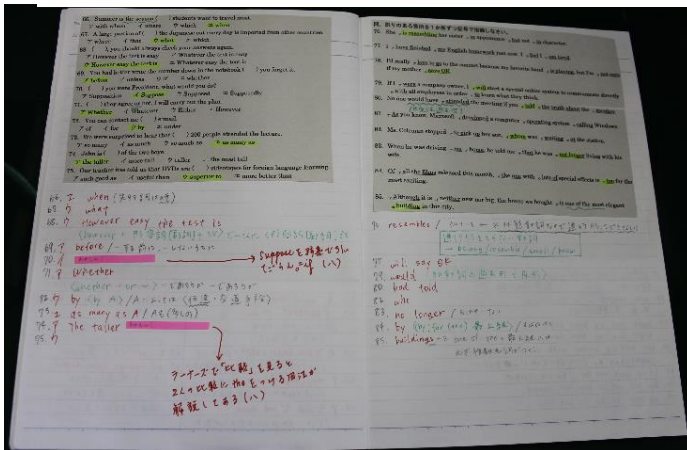


じゃあいつ作るか？ 今でしょ！

▼間違えた問題をノートに手書きで写して何度も解ける問題形式に！さらに各選択肢に出てきた動詞の語法確認も簡潔にまとめてあって1つの問題から4つの知識を整理できるようになっている！



◀とにかくカラフルに仕上げていて、所々に使われている「アプリコットオレンジ」のカラーは赤シートで隠せるためちょっとした時間に手軽にチェックできる！対策のしづらい発音・アクセント分野もその問題で問われた発音記号ごとにその代表的な語彙をまとめておけば、回を重ねることに書き足している！



*記述模試が終わったら、次は6月11日(月)のベネッセマーク模試です。センター科目に、学習内容を広げて、5教科7科目しっかり学習できるように、スケジュールを作っていきます。

卒業生からのアドバイス(抜粋).....

◆3年生になったら模試直しをしましょう。模試ノートを作り、1度全部解きなおして時間を測っていました。わからない所の原因を考え、必要な情報を付け足します。試験本番でもこれだけは持っていました。克服してきたことの積み重ねが目に見えるのは自信に繋がります！

苦手科目に手をつけ始めましょう。数学が苦手だったのでチャートを始めました。答えが書いてある例題の、レベル3以下のものだけを選び、手頃に解けそうだけど微妙なものだけを1日5つ解いていました。夏休みまでに軽く1周できるとベストです。(合格校：早稲田大学、東京学芸大学)

◆模試は絶対やり直した方がいい。6月くらいの模試を11月くらいになってまた解き直してみるのもいいと思う。塾に通うなら自習室を最大限活用するようにする。(他に自分にあった場所があるならそれで良い)授業も受け身になってるだけでは意味がないので予習復習を欠かさず、絶対に必要なところをとり逃さない。なんとなく入っておけば大丈夫と思ってるのが1番危険！(東京学芸大学、立教大学)

◆赤点とっても偏差値50に最後まで乗らない科目があっても諦めなければなんとかなります。私大も国立もそれぞれに大変さがあります。私大は1科目でも苦手があると他の2科目で高得点とっても落ちます。落ちました。国立はセンターで科目の多さに泣きます。でも、失敗しても他の科目でカバーできます。国立私立問わず、配点に留意して苦手と向き合うことが大切だと思います。(東京外国語大学、早稲田大学)

◆模試はとても集中して疲れるので、本番に慣れるのによかったと思います。直しは1回は絶対にしました。塾は一応行っていましたがあまり有効活用できませんでした。必要なかったかも。(千葉大学)

◆盤石な基礎力をつけましょう。どんなに難解な問題も、結局は基礎力が物を言います。僕自身、夏までの基礎固めの時期が終わった後、過去問や難問を解きながらも、基礎固めは最後まで続けました。盤石な基礎力は、本番での自信につながります。土台が無いところに家を建てても安定しないのと同じように、基礎力無き過去問演習は意味がありません。模試やお気に入りの問題集を繰り返し解いて、基礎力の養成に努めましょう。また、ムサキタの授業は基礎力をつけるには最適です。授業を大いに活用しましょう。

切り替えと集中を大切にしましょう。僕は、昼休みには10分程寝たり、夕食後30分程YouTubeを見たりしていました。この時、スマホのタイマーで時間を測ったり、開始時間を意識して、時間が来たら勉強に戻るようにはしていました。また、授業間の10分休みは、中途半端に勉強するよりはこの時間は休んだほうが良いと考えて、友達と話したり、スマホをいじったりしていました。やはりメリハリは大事ですね。また、行事は大いに楽しみましょう。僕も2日間の文化祭は勉強のことなど忘れて楽しみました。その代わりに、翌日以降はしっかり勉強モードに切り替えました。

目標をスケールで考えましょう。志望校合格という「大目標」のために、模試でB判定以上をとるという「中目標」を立て、さらにそのために問題集をここまでやるという「小目標」を立てる、という感じです。僕の場合、一橋合格のために、10月末の一橋模試(駿台実戦、河合オープン)でボーダーランクを突破し、そのために10月中旬までに過去問研究を5年分終わらせる、という目標の立て方をしていました。模試などを一つの区切りにすると良いでしょう。

最大限の勉強量を確保しましょう。量は必要条件、質は十分条件です。まずは量を考え、その量のなかでいかに効率よく勉強できるかを考えるようにしましょう。部活などで忙しい人は、どこまで勉強量を確保できるかを意識しましょう。移動時間などを含めると、意外と時間はあるはずですよ。また、そうすることで、引退後にたくさん勉強するための体力がつかえます。僕は水泳部で6月まで活動していて、引退前の平日の勉強時間は、3~4時間程度でしたが、コンスタントにこの量を確保していたことで、後の勉強が苦ではなかったです。

規則正しい生活を送りましょう。僕は、毎朝7時には起きて、24時には寝るようにしていました。生活リズムがきちんとしていると、勉強の効率も上がるし、体調を崩しにくくなります。

最後に、自信を持ちましょう。受験は厳しい戦いです。きっと、たくさん失敗もするし、「本当に大丈夫だろうか」と思う瞬間もあるでしょう。しかし、そんな時こそ、「俺は絶対出来る!」と強く自分に言い聞かせてみましょう。努力した人間なら、それがきっと自信になるはずですよ。強気に、前進あるのみです。

(一橋大学 明治大学)

◆勉強法の相性には個人差があります。僕は結局一度も塾・予備校に行きませんでした。人によっては塾などで勉強を強制されたほうがやりやすいということもあるでしょう。でもせっかくなので、僕が気に入っていた勉強法を紹介します。

- (1) その日やることをリストアップする
- (2) それぞれの項目に割く時間をおおまかに決める(50分を1として、0.5や1などと設定)
- (3) 50分勉強して10分休む。これで1セット(僕は休憩中音楽を一曲だけ聞いていました)
- (4) 終わった項目を二重線で消す(こうやって次々にタスクを終わらせるのは楽しいものです)
- (5) 3と4を繰り返す

この勉強法のいいところは休み時間が決まっているところです。疲れたから休みすぎて、ということがありません。僕の場合だけかもしれませんが、僕は飽きっぽいので同じ科目を2セット以上続けてやりませんでした。もし50分も集中が持たないのなら、初めは45分15分で区切るとよいでしょう。僕も最初はそうしていました。

ふたつだけ具体的な話をします。ひとつめ。日本史と世界史に関して、絶対に教科書学習をしたほうがいいです。一問一答だけで勉強していると、桓武天皇の母親の名前を書けるのに太平洋戦争が起こった原因についてなにも意見を持ち合わせていない、といったことになってしまいかねません。それでは歴史を勉強した意味がないというものです。ものごとを人に説明できるくらいに理解できるといいでしょう。難しいことですが、そこで得たものは、きっと社会に出ても生きてくるはずですよ。

ふたつめ。数学や問題演習は午前中やりましょう。午前の頭は冴えわたっています。逆に、暗記モノは晩御飯後にやると良いでしょう。午後の頭はよく記憶します。

みなさんはこれからまだまだ伸びます。いくらでも伸びます。僕は一年生の秋の模試で学年最下位になり、二年生のときの数Bのテストで青点（赤点の半分以下）をとりましたが、京都大学に入学し、数学の入試問題でも合格答案を書くことができました。

みなさんは驚くべき可能性を持っています。みなさんのことを応援しています。（京都大学、早稲田大学）

◆その時その時できることに全力を尽くすことを忘れないでほしいです。その気持ちがあったからこそ、高1から小テスト、定期テスト、模試、毎回手を抜かずに望むことができました。

勉強面で悩んだことも多々ありましたが、目の前のことに取り組んでいったからこそ、志望校に向けてスムーズに勉強を進められました。本番、自己ベストを出せたのも自分がやるべきことは全部やりきった、という自信があったからこそだと思います。

受験にミラクルはありません。三年間積み重ねてきたことが自分の答案にそのまま出ます。最終結果がどのようになるかは、今の自分の頑張り次第だということ覚えていてほしいです。また、部活と行事に夢中に打ち込めるのも高校時代だけです。受験期、私が辛くても頑張り続けられたのは、学校生活での楽しい思い出が支えてくれたからです。目の前のことに全力を尽くしている人ってかっこいいしキラキラしているじゃないですか。皆さんなら、そんなむさきた生になれると思います。ぜひ高校生活を振り返った時に、良い思い出と笑えるように過ごしてほしいです。

そして、周囲の方々への感謝の気持ちをいつも持ってほしいです。大学受験をさせてくれて、毎日食事を作ってくれて、受験の日に送りだしてくれる家族。何もかも嫌になっていた時にずっと話を聞いてくれて、一緒にお弁当を食べてくれた友達。毎日のように質問に行っても丁寧に添削してくれる先生方。部活でも受験でも応援してくれた先輩・後輩。皆さんの周りにも皆さんのことを支えてくれる方々が大勢います。辛い時でもそれを思い出せればまた頑張れると思います。

高校生活の中で取り組むこと、努力することにおいて無駄なことは一つもありません。応援しています。最後まで読んでくださって、ありがとうございました。（東京外国語大学、早稲田大学）